

地域の多様な人をつなぐ輪 ～鹿島田駅周辺の空間活用に関する提案～

BR17065 中原明日海
指導教員 鈴木俊治

1. 研究背景と目的

神奈川県川崎市にある鹿島田は、子育て世代の移住者が多いものの、多世代で楽しめる場が少なく新旧の住民同士のコミュニティが成り立ちにくい環境にある。そこで、この対象地において子育て世代や職種・世代を超えたコミュニティ形成の場やエリアの活性化を目的に地域の多様な人が交流できる空間を提案する。

2. 計画対象地域について

2-1. 計画対象地域の概要



川崎市は神奈川県の北部に位置しており、鉄道沿線の特性を活かし、駅を拠点としたまちづくりを行っている。また地理的利便性が高く全国的に人口が減少している中で、居住人口が増加しており今後も増加することが予測される。

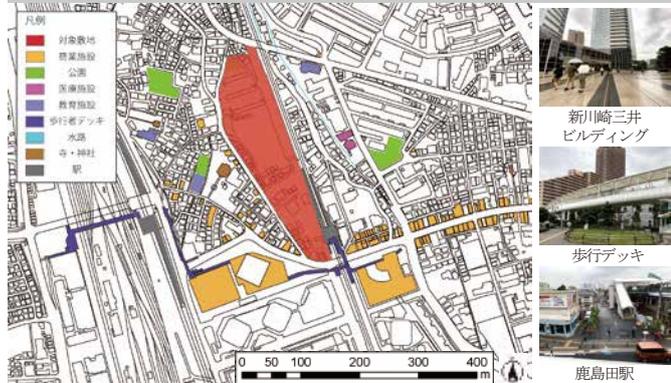
2-2. 歴史とまちの移り変わり



鹿島田は大正時代、都心の食糧確保のため農地が開拓された。昭和1930-80年は貨物線の開通により企業城下町となり、平成になるとマンションなどが建設され、ベットタウンとなりファミリー層が多く流入している。このように、鹿島田は時代とともにまちの在り方が変化し、その積み重ねによって昔の風景を残しながらも新旧が混在している。

3. 計画地の現状

3-1. 計画地周辺状況



鹿島田駅西部地区は、川崎市の地域生活拠点として位置づけられている。2016年11月には新川崎駅と鹿島田駅を結ぶペデストリアンデッキが共用開始され、天候などに左右されることなく両駅の往来が便利になった。

3-2. 商店街などまちの魅力



ニヶ領用水は神奈川県内最古の人工用水路であり、農業用水や工業用水として利用され現在でもその水路が一部残されている。再開発事業区域が縮小されたことによって西口マーケットなどの昭和レトロが漂う旧来の町並みが残る。

4. SWOT 分析と課題

<p>S：強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史ある神社やお寺、ニヶ領用水など地域資源が豊富 マンションの建築によりファミリー層の流入 新川崎駅と近接しているため、東京都心や横浜などへの利便性が高い 	<p>W：弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 多世代で楽しめる空間の不足 子どもの遊べる空間が少ない 歩行者デッキにより、駅間のアクセスで地上が利用されない
<p>O：機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 未利用地がある まちを活性化させるために必要なプレイヤーが揃う可能性がある 鹿島田駅を利用する約9割の人の交通手段が徒歩【東京都市圏パーソントリップ調査（平成20年）より】 	<p>T：脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元商店街の衰退 大規模な開発により、昔ながらの地域の良さがなくなる 木造建造物が残っている地域では災害のリスク

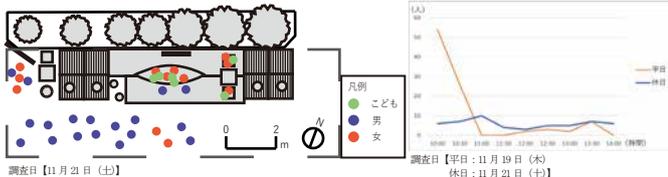
【課題】

- ①多世代で楽しめる空間の不足：多世代の住民同士が交流できる場が少ない。
- ②子どもが遊べる空間の不足：緑地や広場空間が不足しており、小さい子どもが安心して遊べる空間や自然に触れる場がない。
- ③まちを知る機会の減少：駅利用者の多くが徒歩である中、歩行者デッキにより、駅間のアクセスで地上が利用されず、まちに触れることや、まちの魅力を知る機会が減っている。

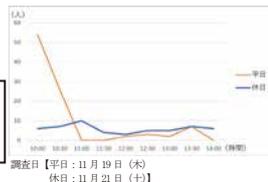
5. 社会実験（滞留調査）

2020年11月17日～22日の6日間にかけて、鹿島田駅前に「えきまえ DAYS ひろば」横浜銀行跡地に「がたんごとんひろば」を設営し、利用実態を調査した。





調査日【11月21日(土)】
図3：えきまえ DAYS ひろば滞留マッピング



調査日【平日：11月19日(木) 休日：11月21日(土)】
図4：がたんごとんひろば来場者数推移

「えきまえ DAYS ひろば」では、日ごとに利用者が増加していき駅前はこの空間が馴染んでいった。座る・寝転ぶなど実際に利用するのは女性や子どもが中心であった。このような空間について地域のニーズがあることがわかり、それを設計提案で実現化する。

6. 提案

6-1. 計画コンセプト

3つの広場を軸にして、それを囲むように佇む円形の建物、小川や散歩道がある。この空間は人が集まり交わる場所であり、広場を中心に人をつなぐ輪が波紋のように広がり地域の住民同士をつなぐ。

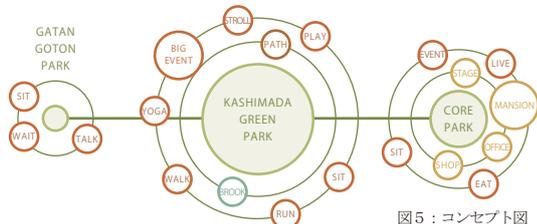


図5：コンセプト図

6-2. 全体計画 (パース)



6-3. 計画詳細 (地上)

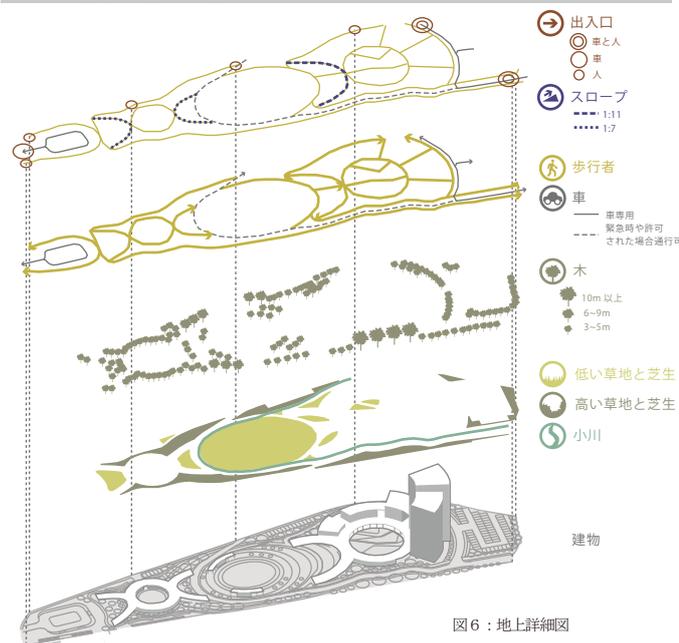


図6：地上詳細図

6-4. 計画詳細 (図面)

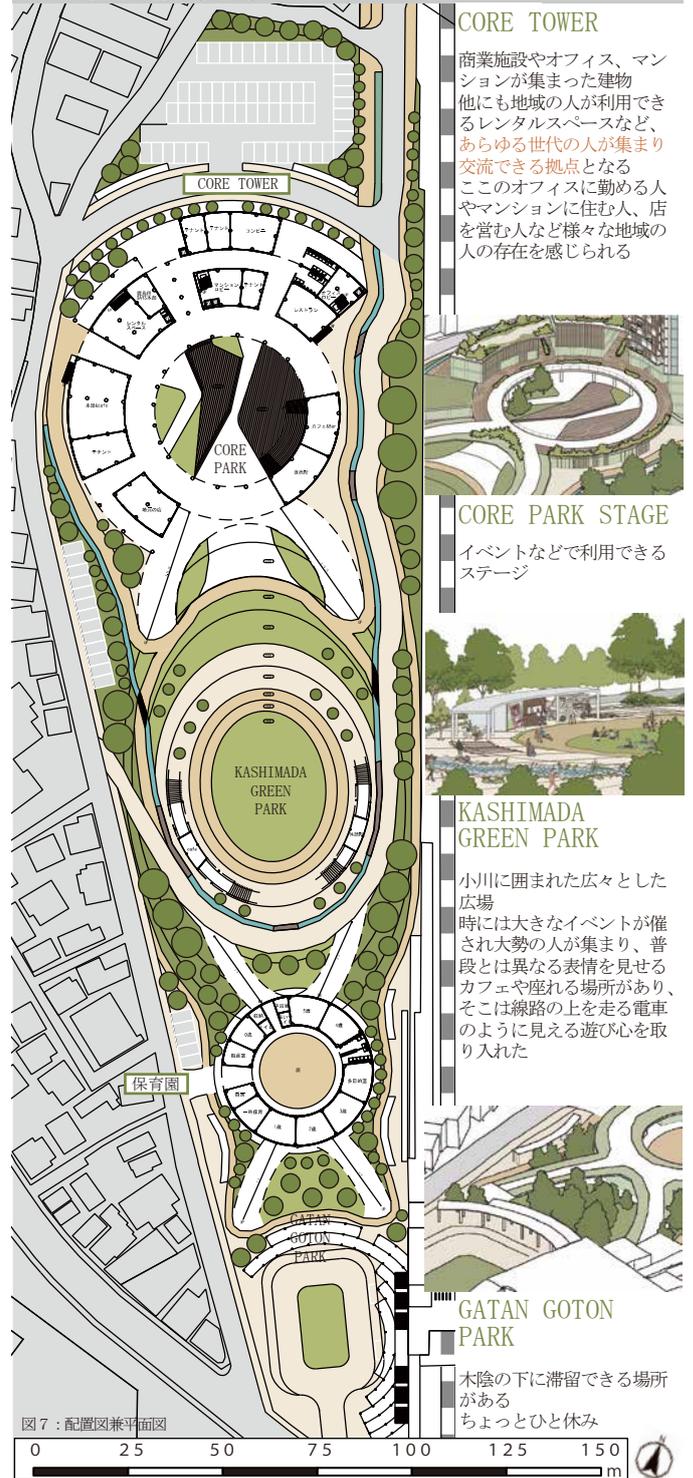


図7：配置図兼平面図

7. まとめ

本提案により、この空間が地域の多様な人をつなぐ輪となり、まちなにぎわいや人とのつながりが強化され、地域が活性化していくことを期待する。

8. SDGs

駅近に新たなまちの魅力を創出することによってまち全体に活気を生む
水や緑の自然と触れ合える空間の提供、または暗渠化されたニゲ領用水の再生

9. 参考文献

・『川崎市における再開発事業のあゆみ』川崎市 まちづくり局 市街地整備部 地域整備推進課
https://www.uraja.or.jp/50th_anniversary/doc/02.pdf
・『南武線沿線の現況と課題について』川崎市より
<http://www.city.kawasaki.jp/530/cmsfiles/contents/0000079/79095/haihusiryou5-2.pdf>